

令和5年度新潟県高等学校秋季地区体育大会全県登山大会 講習会

講師 小川 洋文

令和5年9月14日

所属 かいらぎ山岳会（新発田高校登山部OB・OG会） 焼峰山・蒜場山整備の会（新発田市）
胎内北飯豊の会（胎内市）

1 登山との出会いと里山

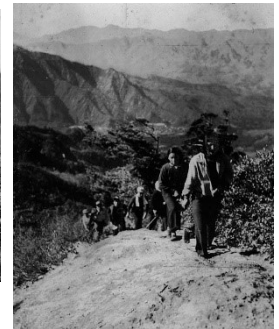
- ・小学校2年の五頭登山でデビュー
- ・生活道路だった登山道
- ・新発田高校登山部に入部



上：1974(昭和49)年 秋季全県登山講習会越後駒ヶ岳
左：1975(昭和50)年 春季下越地区登山講習会二王子岳

2 焼峰山について

- ・焼峰山は、従来の越後の地誌に全然記載のない山である。～ 焼峰山の最大の強みは、鉄道から極めて近いことである。～ 初心者向きのスリルのある尾根道は、春から秋にかけて数千人が登り、南面、北面の花崗岩の美しい沢も集中的に遡行されている。～ 古老に訊くと、本来の焼峰は東方ほぼ1100^m峰で、西方の三角点の峰を東台山と云った。～ 昭和2年、(中略)焼峰山も飯豊連峰の展望台として注目され、越後山岳会、下越山岳会に開拓された。(藤島玄著「越後の山旅」より)



上：1964(昭和39)年 青年団登山
写真提供：「緑の谷・赤い谷」ブログより
[緑の谷・赤い谷*](https://livedoor.blog)
(livedoor.blog)
撮影者：トーマスさん(故人)
左：1984(昭和59)年 赤谷小学校全校登山

3 修蔵峰について

- ・「昭和32年12月30日本田修蔵君赤津山よりの帰途ここに眠る」（慰霊碑碑文より）
- ・極地法により、滝谷から焼峰(C1)、四ツ倉越え(C2)を経て、赤津山往復を目指す。
- ・慰霊碑は、65年経った本日まで2度の大規模改修を経て、維持管理されている。



昭和三十三年八月十日 遺體を祀る



C2 への出発の朝
(左：本田氏)

左：1958(昭和33)年8月10日 慰霊碑建立の日
右：2017(平成29)年10月 現役・OB 合同慰霊登山

4 滝谷登山口 安全標識について

- ・故本田修蔵様御遺族から、当会に御寄贈いただいた資金を基に設置した。(令和5年5月)
- ・登山の安全を願い、登山口から焼峰山頂までの道のりをほぼ10等分して目印とした。



5 登山道維持管理について

- ・誰がしているのか
- ・何のためにしているのか
- ・愛する地元の山に、誰もが安全に登ってもらいたい。



- 倒木処理
- 刈払い
- ロープ設置点検
- 浸食対策の水切り
- 階段づくり

かいらぎ山岳会 HP をご覧ください <http://reiwakairagi.net/>